

# 経済観測

サンフランシスコ連銀主催の第1回アジア経済政策コンファレンスが、今週前半に開催された。アジアと世界の金融危機への政策対応がテーマだった。

アメリカの地区連銀が主催する研究コンファレンスの中でも一番有名なのは、毎年8月末に行われるカンザスシティー連銀主催の「ジャクソン・ホール」コンファレンスである。米連邦準備制度理

## 危機への政策対応

事会のバーナンキ議長、主要国中央銀行の総裁や著名な経済学者が参加する。ここでの講演や論文は大きな反響を呼ぶことが多い。

サンフランシスコ連銀は、アジア太平洋地域に重点を置いて、ジャクソン・ホール・コンファレンスに匹敵するようなコンファレンスを創設したかったのだという。

コンファレンスの冒頭で、バーナンキ議長より基調講演があり、アジアの金融機関は今回の世界金融危機では、大きな影響を受け

東京大教授

伊藤 隆敏

なかったものの、昨年の10月以降は、大きな輸出の低下とそれによるGDP(国内総生産)成長率の低下に悩まされていること、危機のアジアへの波及は、質



再現しないために必要な政策(米国の貯蓄率向上、財政赤字の縮小、中国の消費促進)を説明した。いつものように、極めて明快な説明と論理である。

易と金融の二つのチャネルが考えられること、この危機からの回復の過程で世界不均衡(米国の経常収支赤字と中国・アジア・産油国の経常収支黒字)が今回の世界金融危機を他山の石として、更に、金融機関経営の革新、金融監督体制の整備などに努めなくてはならない。